

SWCCグループ

2020年3月期 第3四半期
決算補足説明資料



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

February 3, 2020

<https://www.swcc.co.jp>



2020/3月期 第3四半期決算総括

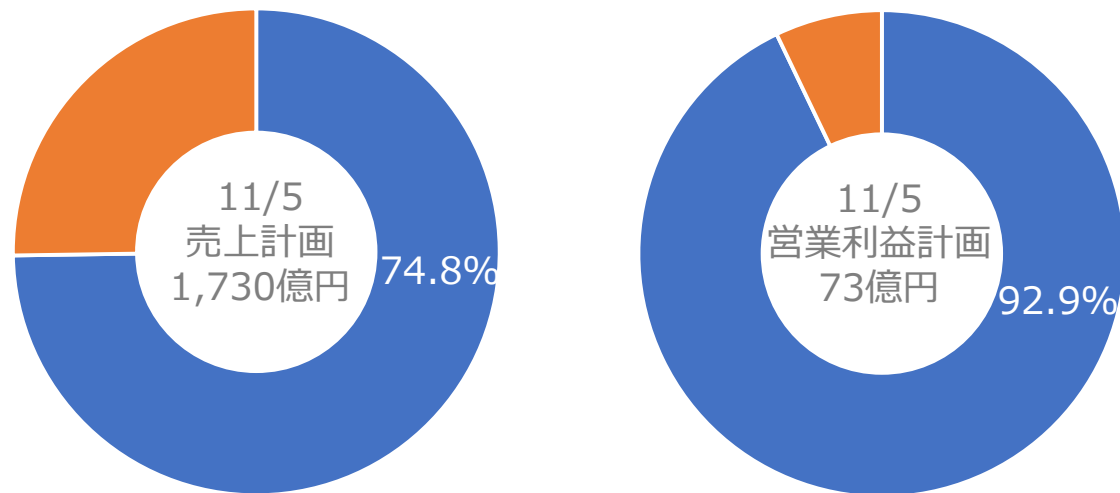
業績：業績は堅調に推移、営業利益は前年同期比+50%増益

- ・ エネルギー・インフラ事業は、首都圏再開発需要等による建設関連向けや電力インフラの国土強靱化対策、再生可能エネルギー向け需要が引き続き堅調に推移し、増収・増益。
- ・ 通信・産業用デバイス事業は、海外の光ファイバが低調な結果となりセグメント売上減少。国内建設関連向けやデータセンター向け通信ケーブルが引き続き好調で減収・増益。
- ・ 電装・コンポーネンツ事業は、高品位線材は堅調。電気機械向け等の巻線需要の低迷が継続し、減収・減益。

施策面：

- ・ 建設・電販向けは価格適正化を目指す。
- ・ 電力システム事業は新ビジネスモデルを推進。
- ・ 自動車向け製品の安定供給策を推進。
- ・ 業務効率改善による経費削減。
- ・ 収益性向上（営業利益率UP）を継続
- ・ 配当15円予想へ増配修正

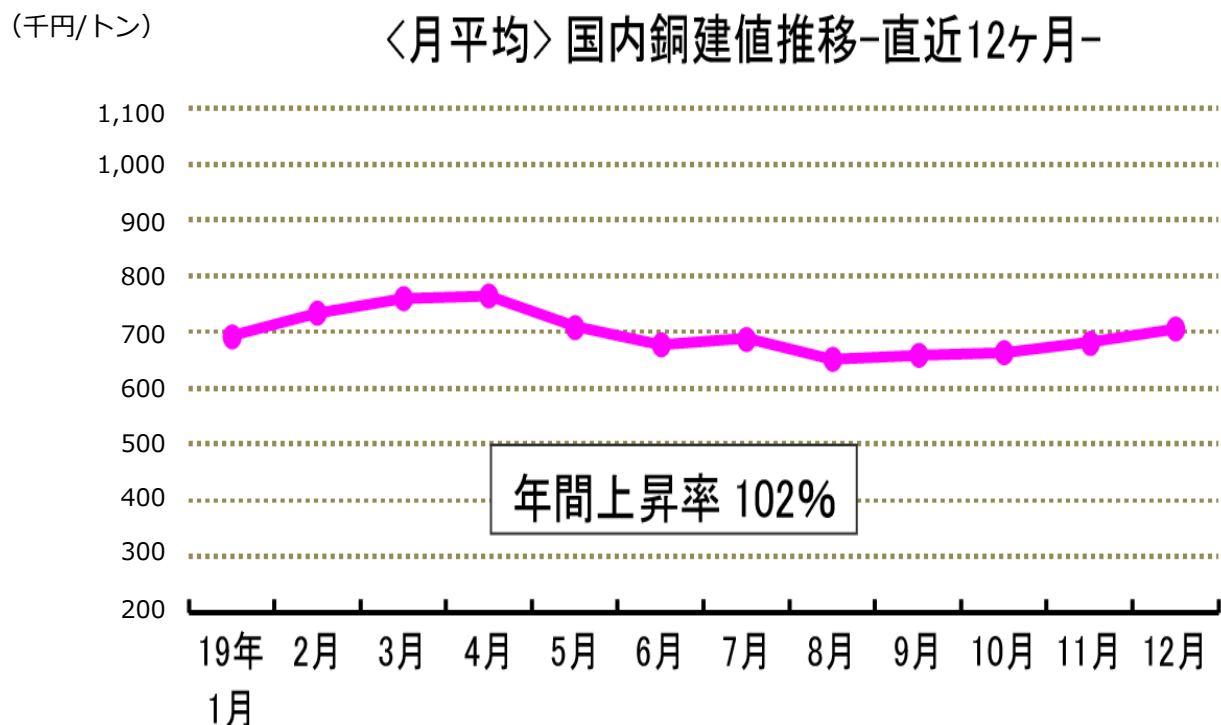
3Q進捗率（売上高/営業利益）（単位：億円）



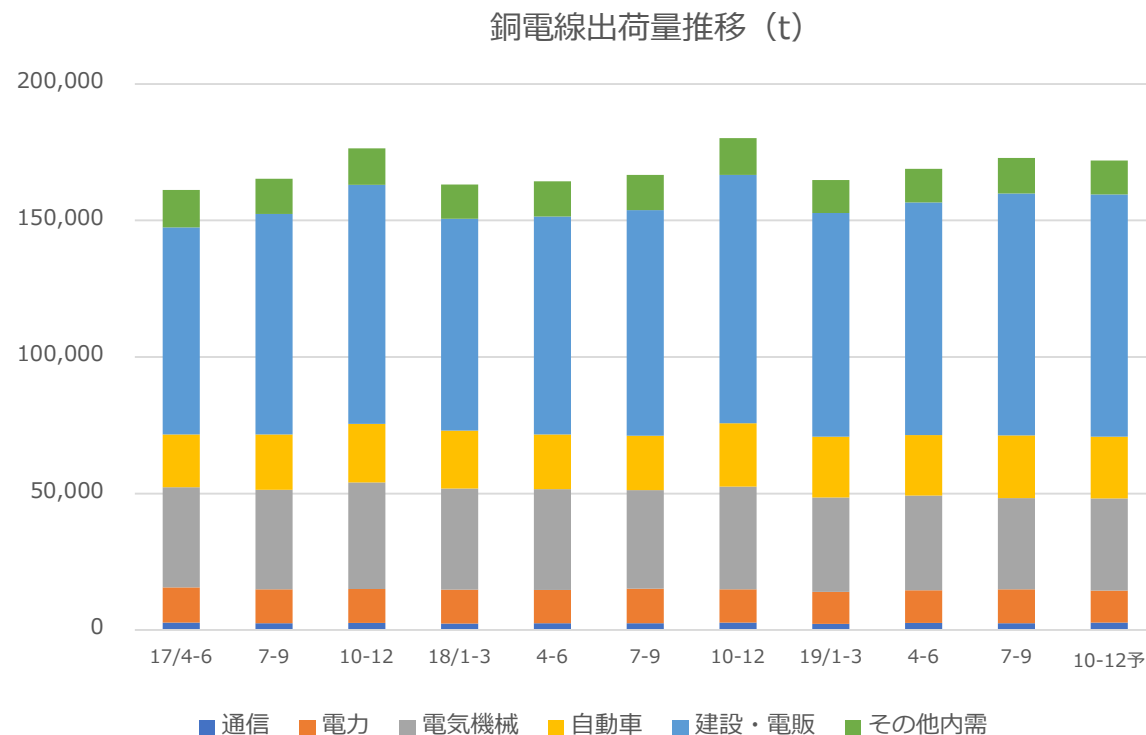
期末配当予想を10円⇒**15円**へ増配予定

マクロ環境

- 国内銅価格（円ベース）は、米中貿易摩擦の緩和期待等により回復基調（前年同期比+2%）であったが、足元は新型コロナウイルスによる需要減により下落傾向
- 国内の銅電線出荷量は、建設・電販を中心に安定的に推移。



出所：(社団) 日本電線工業会データより



出所：(社団) 日本電線工業会データより

3Q 連結損益計算書（前年同期比）

- 売上高は前年同期比△1.9%となったが、売上総利益率13.9%と+1.9P改善。結果、営業利益は前年同期比+50%の増益

(単位：億円)	2018年度 3Q実績	構成 %	2019年度 3Q実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	1,317	-	1,293	-	△1.9%
売上総利益	158	12.0%	179	13.9%	+13.2%
営業利益	45	3.4%	67	5.2%	+50.0%
経常利益	38	2.9%	63	4.9%	+62.7%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	27	2.1%	45	3.5%	+65.7%

3Q セグメント情報（前年同期比）

- 今期より新セグメント体制を導入。エネルギー・インフラ事業が売上・利益牽引。通信・産業用デバイスは減収なるも、収益性が改善し増益。

(単位：億円)

	2018年度 3Q 実績		2019年度 3Q 実績		増減	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益
エネルギー ・インフラ	632	25 (4.0%)	667	48 (7.2%)	+35	+23
通信・産業用 デバイス	249	17 (6.7%)	229	19 (8.6%)	△20	+2
電装・ コンポーネンツ	399	6 (1.6%)	361	3 (0.9%)	△38	△3
その他 (内新規事業)	37 (22)	△3 (△1)	36 (22)	△3 (△1)	△1	△0
合 計	1,317	45 (3.4%)	1,293	67 (5.2%)	△24	+22

※ 2019年度3Qより一部セグメントを見直しております。

2020年3月期 通期業績予想と配当予想修正

- 第3四半期までの業績を背景に、通期業績と配当予想修正

(単位：億円)

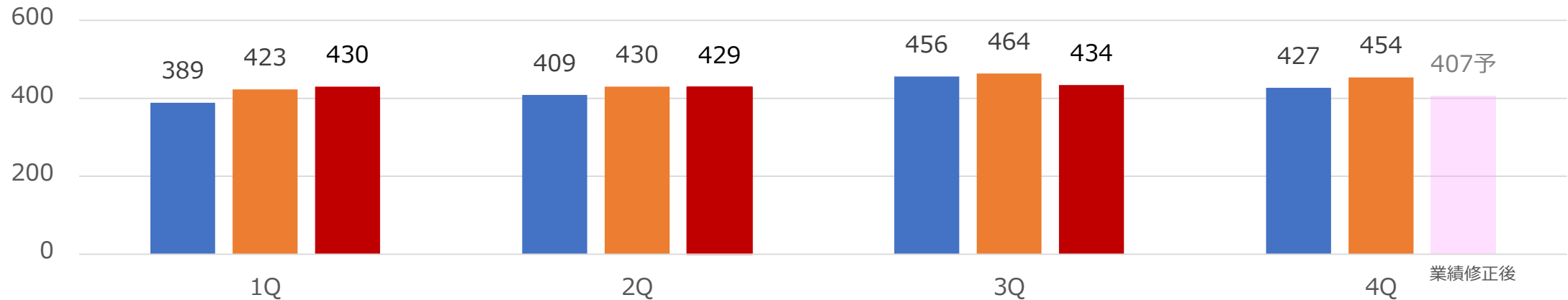
	2018年度 実績	構成 %	2019年度 11/5計画	構成 %	2019年度 修正計画	構成 %	修正額	修正幅 %
売上高	1,771	-	1,730	-	1,700	-	△30	△1.7%
営業利益	66	3.8%	73	4.2%	80	4.7%	+7	+9.6%
経常利益	56	3.2%	66	3.8%	73	4.3%	+7	+10.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	45	2.6%	48	2.8%	48	2.8%	-	-
配当金	7円/株	-	10円/株	-	15円/株	-	+5円	-

四半期業績推移（売上高：過去3期比較）

(単位：億円)

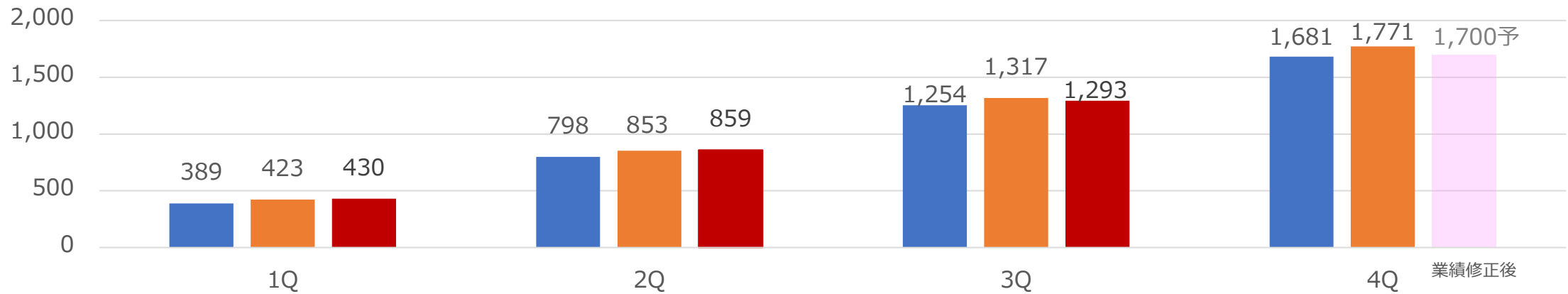
四半期毎の売上高推移

■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度



(単位：億円)

累計売上高推移

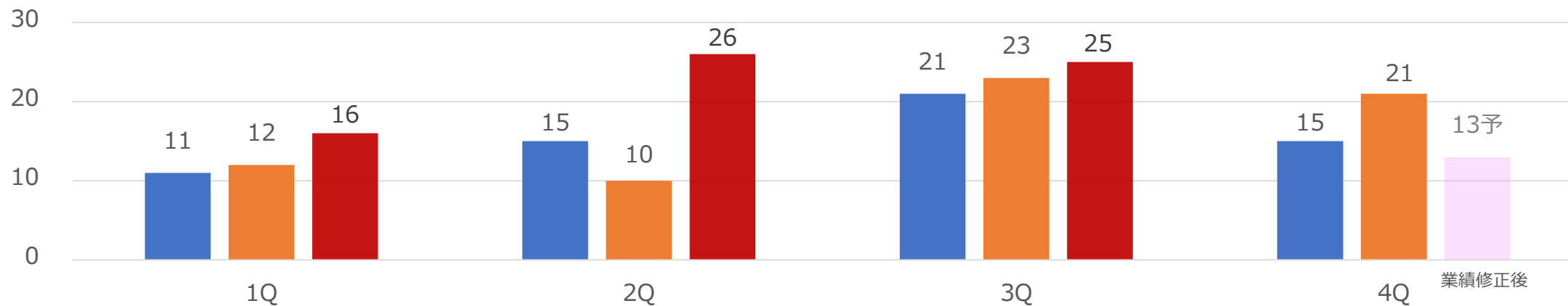


四半期業績推移（営業利益：過去3期比較）

(単位：億円)

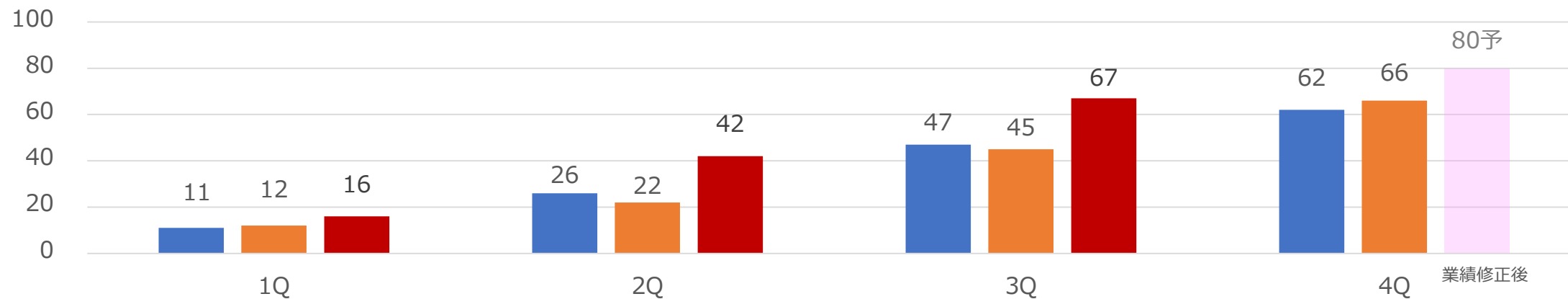
四半期毎の営業利益推移

■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度



(単位：億円)

累計営業利益推移

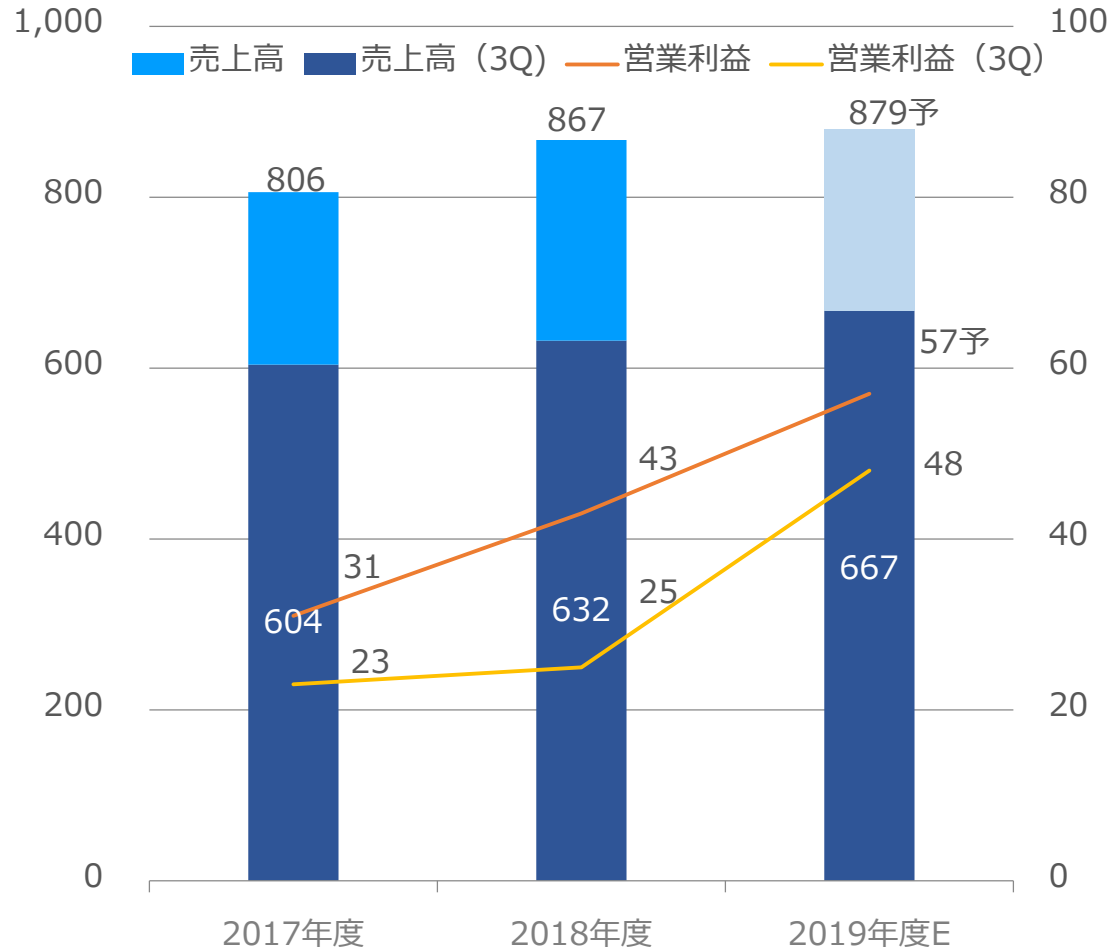


エネルギー・インフラ事業

実績&業績計画



(単位：億円)



※2017年度は当社で簡便的に試算した参考値です。

2019年度Eの予定は業績修正後の数値です。

2019年度3Qより一部セグメントを見直しております。

■特徴：当社の基盤事業

- ①発電所から家庭までを繋ぐ電力ケーブル
- ②当社独自の電力機器部品「SICONEX®」
- ③建築物に使われる電線や免震部材

- 首都圏再開発需要等による建設関連向けや電力インフラの国土強靱化対策、再生可能エネルギー向け需要が引き続き堅調。

売上高667億円（前年同期比+5.5%）

営業利益48億円（前年同期比+90.3%）

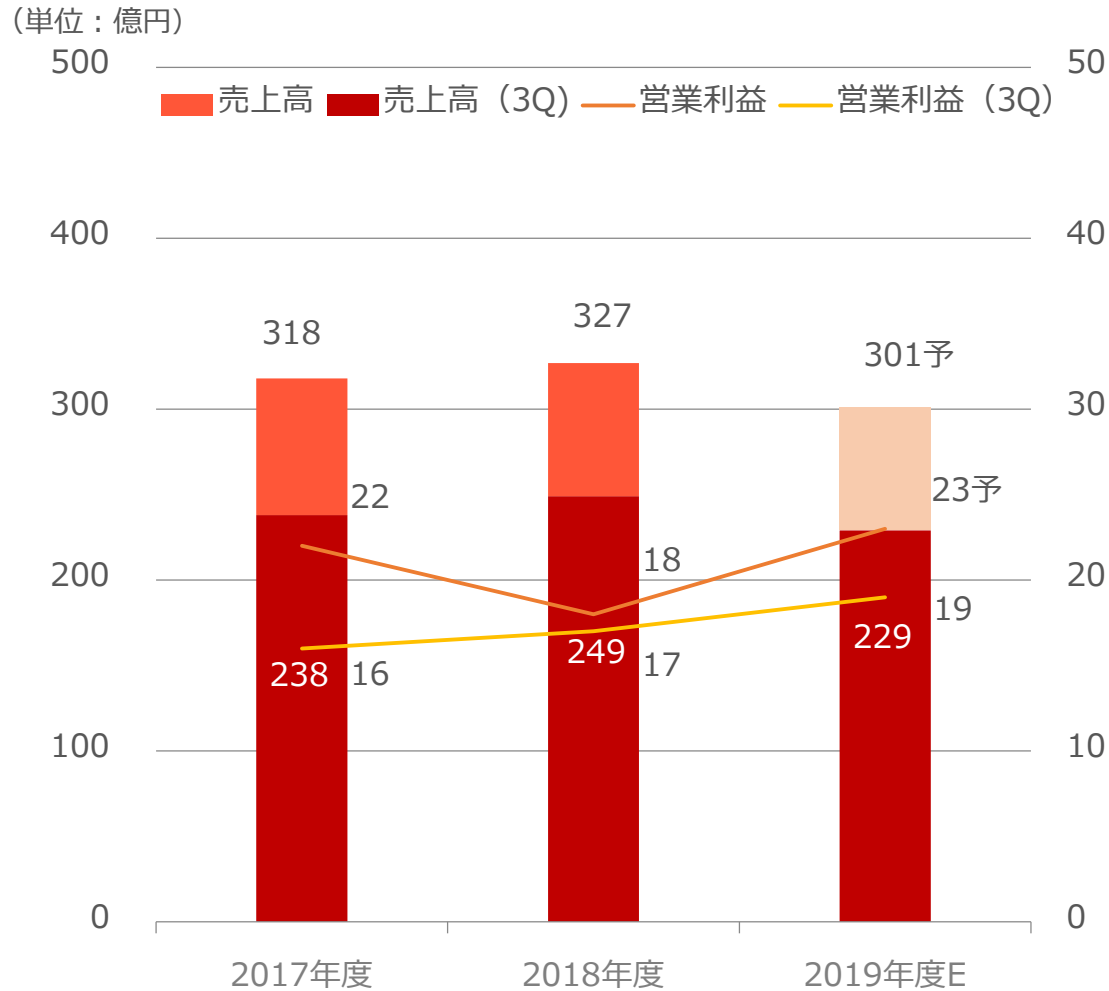
- 通期計画：売上高は、建設関連向けや電力インフラ需要は引き続き堅調を維持し、前年度比+12億円の879億円。

営業利益は、前年度比+14億円の57億円の見込み。

営業利益率：6.5%（前年度5.0%）

通信・産業用デバイス事業

実績&業績計画



※2017年度は当社で簡便的に試算した参考値です。

2019年度Eの予定は業績修正後の数値です。

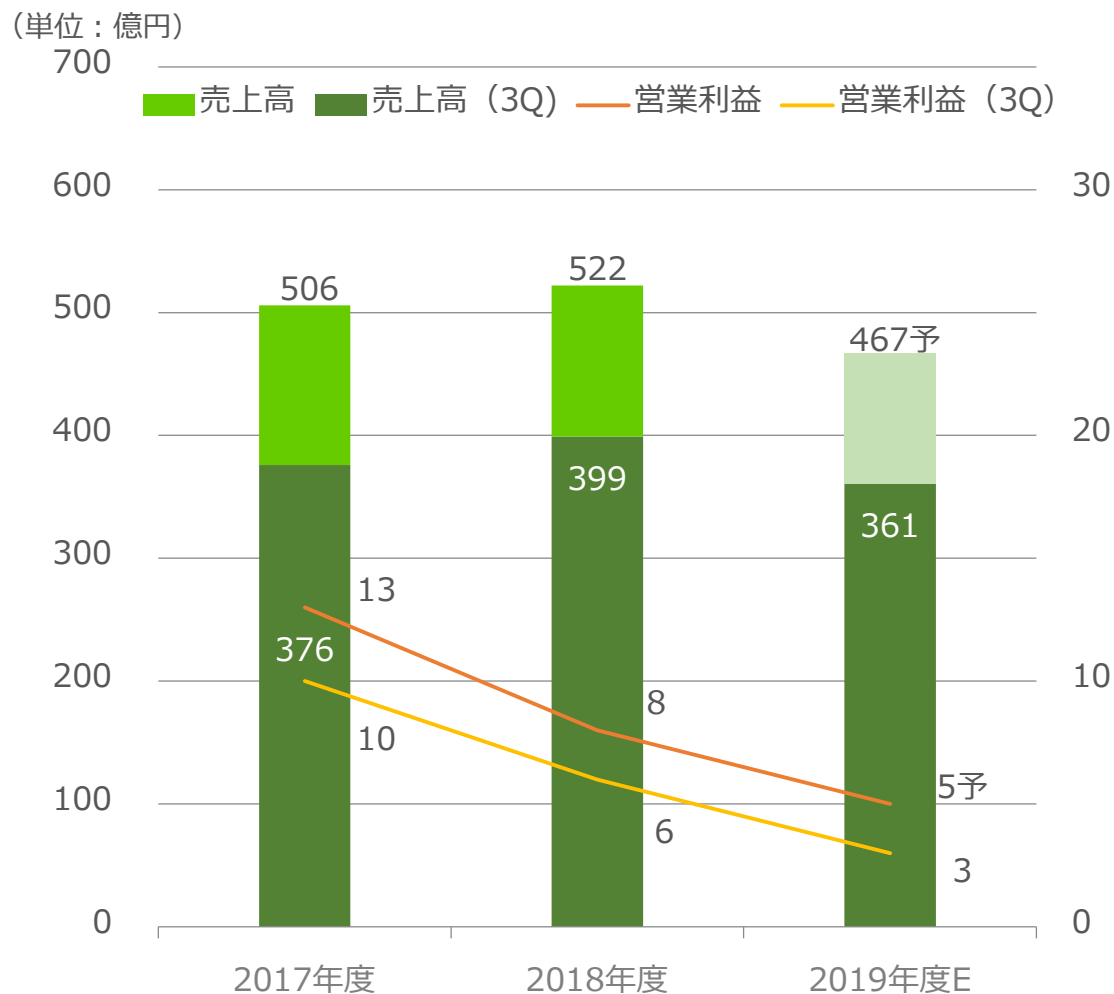
2019年度3Qより一部セグメントを見直しております。

■ **特徴**：様々な市場に向けた通信ケーブルと産業用デバイスをグローバルに提供

■ **海外の光ファイバ需要は前年度下期から市場減速が継続。国内建設関連向けやデータセンター向け通信ケーブルは引き続き堅調に推移。ワイヤハーネスは構造改革を推進中。**
 売上高229億円（前年同期比△8.2%）
 営業利益19億円（前年同期比+18.3%）

■ **通期計画**：売上高は、米中貿易摩擦等による需要停滞影響を受け、前年度比△26億円の301億円。営業利益は、国内通信ケーブルの需要が堅調なため、前年度比+5億円の23億円の見込み。

営業利益率：7.6%（前年度5.5%）



※2017年度は当社で簡便的に試算した参考値です。
2019年度Eの予定は業績修正後の数値です。

■ **特徴**：日本で唯一のディップ・フォーミングシステムで製造した無酸素銅MiDIP®と銅合金は戦略製品

■ 電装品向け高品位線材は堅調に推移したが、電気機械向け等の巻線需要が引き続き低迷。構造改革の加速により、収益率改善を目指す。
売上高361億円（前年同期比△9.4%）
営業利益3億円（前年同期比△48.3%）

■ 通期計画：売上高は、高品位線材の需要は引き続き堅調だが、今期の巻線需要の回復が見込めず、前年度比△55億円の467億円。
営業利益は、前年度比△3億円の5億円

営業利益率：1.1%（前年度1.6%）

貸借対照表（前期末比較）

・ 自己資本比率は31.8%（前期末比3.7ポイントアップ）

（単位：億円）

	19/3/31	19/12/31	増減
現金・預金	49	55	+6
受取手形・売掛金	434	402	△32
棚卸資産	213	233	+20
その他	45	44	△1
流動資産 計	741	734	△7
有形固定資産	392	396	+4
無形固定資産	12	11	△1
投資その他の資産	96	110	+14
固定資産 計	500	517	+17
資産 合計	1,241	1,251	+10

	19/3/31	19/12/31	増減
支払手形・買掛金	212	198	△14
短期借入金・社債	335	317	△18
その他	150	143	△7
流動負債 計	697	658	△39
長期借入金・社債	121	126	+5
その他	67	65	△2
固定負債 計	188	191	+3
負債 合計	885	849	△36
資本金	242	242	0
資本剰余金	55	57	+2
利益剰余金	10	53	+43
その他	49	50	+1
純資産 合計	356	402	+46
負債・純資産 合計	1,241	1,251	+10



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）
事業戦略統括本部経営企画部
TEL：044-223-0520
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

<https://www.swcc.co.jp>



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。